このニュースはＦＡＸとメールで送っています。地域民報に転載したり、各支部に配布するなどご活用ください。

札幌市議団ニュース

2011年6月24日 No.37
日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

議案審査特別委員会・論戦特集 ①

＜井上議員＞ 緊急性のある場合は迷わず119番、相談をしたい場合は救急コールセンターへと分けるべき

導入に向け検討されている救急コールセンターは、電話で短時間に緊急度を判断する専門性や医療機関との連携、体制の充実がより求められます。

井上ひさ子議員はこの問題を取り上げ、核家族化の進行するなか、若いお母さんや高齢者が気楽に相談できることは良いことだが、「傷病者の搬送遅延、病院の取り違え、受け入れ先の病院探しに時間がかかるなど心配される。緊急性のある場合は迷わず１１９番、相談をしたい場合は救急コールセンターへと、区別すべきだと思うが、どうか」と質しました。

これに対し**飯田晃医療対策担当部長**は「病院にいく必要のある場合は従来どうり１１９番へ、救急車を呼ぶべきか迷った場合にはコールセンターの利用を。両者の違いを明確にして、様々な媒体を通じて啓発していく」と答弁しました。

また**井上ひさ子議員**は、「相談の電話といっても電話をかける人は冷静さを失って動揺していることが多い。あるいは外見上重症に見えなくともすぐに処置と治療が必要なこともある。それを電話で聞き取って判断することは、高度な専門知識と臨床の経験が必要で間違いは許されない。ですから対応は、医師がやることを基本とすべきと思うが、医師の配置については、どのように考えているか」と質問。

飯田晃医療対策担当部長は「相談者に適切な対応ができる人員を確保するために、今後、医師会など関係機関との調整をすすめていく」と答えました。（6/21）

＜小形議員＞ 市電のループ化にあたって新型低床車両の導入を

小形かおり議員は、ようやく踏み出した路面電車の延伸問題を取り上げ、「ループ化（すすきの駅と南１条西４丁目を結ぶ）にあたって新型車両の導入を検討中とのことだが、これを機会に、この新しい車両は、是非低床車両にすべきと思うが、どうか。またループ化でめざすものは何なのか、まちづくりにどのような効果があると考えるか」と質しました。

佐藤達也路面電車担当部長は「市民からの声も多数あり、バリアフリーに対応した新型低床車両の早期導入を考えている。また、ループ化によっては、魅力と賑わいある街並み空間の創造、環境面の効果、そして市民活動の誘発により都市の活性化が図られる」と答弁しました。

つぎに**小形かおり議員**が「３地域（JR 札幌駅、創成川以東、桑園）への市電延伸については、市長に１万３千を超える延長署名が届けられている。今後どのように進めようと考えているか」と質問したのに対し**佐藤達也路面電車担当部長**は、「ループ化（H26 年工事着工）と並行して、３地域それぞれ、関連するまちづくり事業との連携を図りながら検討を進めていく」と答弁。

小形かおり議員は「まちづくり事業との連携を図りつつ検討を進めるというが、これら関連する事業とは、創世三区、南一条、札幌交流拠点、苗穂駅再開発など大規模な事業と思うが、その進捗状況に電車延伸が左右されるべきではない」と、最後に強く求めました。（6/21）